



M7級の首都圏直下型の大地震が今後4年以内に起こる確率は70%、との報道が1月末にありました。(東大地震研より発表。)地震大国に住んでいる私たちにとって、ますますもって日頃の備えは欠かせません。

障害のある人の防災対策について、私たちの取り組みのなかからお役立ち情報をご紹介します。

★ 地域防災拠点に ありそうでないもの・・・！？ (シリーズ2)

保土ヶ谷区には26ヶ所の地域防災拠点があり、それぞれの備蓄庫には「救助用品」「救護用品」「生活用品」「食料・水」など38種類の防災関連グッズを置いています。ところが…

生活用品は…

| | |
|-----------|--------|
| 高齢者用 紙オムツ | 210 枚 |
| 乳幼児用 紙オムツ | 1350 枚 |
| 生理用品 | 425 個 |
| トイレットペーパー | 192 巻 |

震災時に深刻な問題になった、**排泄**に関する用品はこれだけです。特に拠点のトイレが使えなくなった理由は**トイレットペーパー不足**でした。防災グッズに各自**1ロール**は準備が必要です。**紙オムツ**や**生理用品**も、3~7日は持ち堪えることができる量の準備が必要です。

防災拠点に行けば何とかかなと思わず、『自助』を大切に！

避難場所って何種類あるの？

もしも大きな地震が起きて、皆さんがお住まいの地域、仕事で昼間活動している場所などで被災したり、自分の家にもいられない被害を受けてしまった場合、どこへ行けばよいかご存知でしょうか？

今回は避難場所の種類とその役割についてご紹介します。

一時(いっとき)避難場所…災害時に一時的に避難する場所。

公園など建物のない場所が多い。

広域避難場所…大きな公園や大学などに設置。一時避難場所が危険な場合に集団で避難する場所。

地域防災拠点…小・中学校などに設置。拠点単位で地域住民が運営委員会を作り、中・短期間避難する場所。

特別避難場所…福祉施設などに設置。一般の避難所での生活が難しい障害者や高齢者などが避難生活をする場所。

★ 避難場所それぞれに役割があり、どこへ避難しても良いというわけではありません。ご自分の生活圏内にある避難場所とその役割を知り、いざという時に役立てられるよう心がけておくと良いでしょう。

♪♪♪ 無料配布中 ♪♪♪

★障害福祉の災害マニュアル避難編 (本人用、事業所用) あります。お問い合わせは事務局まで。

★安くて便利!! 非常用炊飯袋

普通のお米と最小限の飲み水があればOK、袋は1枚10円程度と、とても経済的。



鍋に沸かす湯は、飲めない溜め水や風呂水でも可。沸騰した湯の中で30分煮た後に10分蒸らして完成。

大きい鍋があれば、同時にでも、時間差で順番にでも、多量に炊くことができます。お粥や重湯、茶飯もつくれます。

<お問い合わせ>

神奈川県災害ボランティアステーション
090-8170-6337(代表:鈴木)

★出前講座の詳細や窓口については裏面をご覧ください。

<発行> 保土ヶ谷区地域自立支援協議会 防災部会

<連絡先> 保土ヶ谷区神戸町140-2 ほどがや地域活動ホームゆめ内
自立支援協議会 事務局 (TEL 045-340-3360)